

平成 24 年度

教育指導の計画

(最終反省)

大阪市立瑞光中学校

目 次

総括評価シート	1
項目別評価シート	
(1) 学校経営の重点	2
(2) 学習指導の重点	3
(3) 生活指導の重点	4
(4) 保健管理・指導の重点	5
(5) 研修の重点	6
(6) 人権教育指導の重点	7
(7) 進路指導の重点	8

1. 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤とする教育の一層の深化・充実を図る。

2. 重点目標

- ・ 基本的な生活習慣の定着と改善
- ・ 基礎・基本の学力の定着と向上
- ・ 小中連携による9年間を見据えた生活習慣と学力の向上

3. 評価項目の達成状況

A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

評価項目	達成状況	評価の理由
(1) 学校経営の重点	B	小中連携アクションプラン、保護者アンケート、教育指導計画 3学年共通学習アンケート
(2) 学習指導の重点	B	保護者アンケート、全国学力・学習状況調査、教育指導計画
(3) 生活指導の重点	C	生指記録カード、生徒アンケート、教育指導計画
(4) 保健管理・指導の重点	B	保健室便り、保健室来室カード、教育指導計画
(5) 研修の重点	B	相互授業参観、教育指導計画
(6) 人権教育の重点	C	模擬授業による道徳研修会、教育指導計画
(7) 進路指導の重点	B	進路だより、進路の手引き、教育指導計画

4. 次年度への改善点

- ・ 規範意識を持った生徒集団に育てるため、きめ細かい指導を行うことにより落ち着いた学習環境を整える。
- ・ 学力の定着と向上を図るため、授業規律の確立に努める。
- ・ 朝読書の時間を定着させ、落ち着いた状態で1限目より授業を受けさせる。
- ・ 一人で学習する習慣がついていない生徒が多いので、保護者と連携をとりながら、家庭学習の習慣化を図る。
- ・ 日々の家庭学習課題の提供とその点検を実施する。

項目別評価シート

(1) 学校経営の重点

大阪市立瑞光中学校

目 標：	*各分野でPDCAサイクルを確立し、学校課題について全校で組織的に教育実践に取り組む。
------	---

A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【組織運営】学校経営方針を明確に提示し、そのもとに全教職員で「教育指導の計画」等を作成し、実施する。	B	B
②【学校評価】組織的な取組検証、改善サイクルを確立し、昨年度のアンケート（生徒・保護者）結果を踏まえて、学校運営の改善に取り組む。	B	
③【校種間連携】教科指導や特別支援教育・部活動指導などにおいてPTAや地域住民・各種団体・学生などのボランティアなどを昨年度より協力度を高める。	C	
④【家庭・地域との連携】小中連携アクションプランに基づいて、学期に1回の交流・協議会を実施する。	B	

結果と分析

① 教職員が情報を共有することにより、改善の必要性について共通理解することができた。さらに改善を進めるために改善方法について検討する必要がある。
② 教員相互の授業参観等、2年次研修・5年次研修に積極的に取り組み、指導法の工夫や改善に努めたが、中間チェックを毎回必ず行うことができなかったため、最後までやりきれぬ組織と方法を検討する必要がある。
③ 学生ボランティアの協力により放課後学習を実施することができた。次年度は学生ボランティアの人数を増やす必要がある。
④ 学期に1回、教職員の交流会を実施し、異校種について理解を深めることができた。授業体験はとても有意義な取り組みなので、一層の推進を図る。

次年度への改善点

① 教職員の情報の共有化を一層すすめ、必ず点検し課題に対して組織的に取り組む。
② 教員相互の授業参観の回数を増やし、経験年数の浅い職員に対して相談しやすい環境をつくる。
③ 学校元気アップ地域本部事業と連携をすすめ、学力補充学習や質問学習等を実施し、基礎・基本の定着をめざす。
④ 各校で決まった行事予定を年度途中に変更することはとても困難なので、前年度中に次年度の小中連携関係の行事は決めておく。

項目別評価シート

(2) 学習指導の重点

大阪市立瑞光中学校

目 標：	*子どもの学力向上につながる授業改善により、基礎・基本の定着に取り組む。 *学力補充の充実や発展的な学習を進め、自ら学ぶ意欲と態度を育成する。
-------------	--

評価基準	A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった
------	--

取組内容（指標）	達成状況
①【 道徳教育 】12月に行う生活アンケートの「人に対して思いやりの気持ちを持って接している」の項目について、「あてはまる」と答える生徒の割合を5月より増加させる。	B
②【 個に応じた学習指導 】少人数授業やTTを実施している教科では、その特性を活かし、学習効果を高める。他の教科においても、個々の力量に応じてこまめにチェック・助言等行い、基礎・基本が身につくよう指導する。	B
③【 言語力の育成 】自分の考えや意見を発表させる機会を増やす。また、コミュニケーション活動や話し合いの活動を、計画・実施する。	B
④【 自主学習習慣の定着 】自作のプリント等の家庭学習教材を多く提供し、自主学習習慣を定着させる。	B
⑤【 特別支援教育 】1対1の課題学習や入り込み授業を、前年度比率120%にする。それにより、個々の教育ニーズに応える。	A

結果と分析

- ① ・推進委員会を中心に8月、9月と研修に参加し、9月には教職員に対して校内研修を行った。11月には研究授業を行い、1年生の教員がそれをうけて授業を展開できた。2年生も3学期に2時間の授業を行った。しかし、目標の授業数には届かず、来年度しっかりした計画が必要となった。
 ・アンケートは7月と2月に行うことができた。
- ② TTを実施している教科では、TTを有効に活用して生徒個々にかかわり、こまめに助言・チェックができた。その他の教科でも机間巡視・ノートチェック・自主教材の活用・個々の能力に応じた助言等行うことにより、基礎・基本的な内容が身につくように指導できた。
- ③ 各教科とも自分の考えや意見を書かせ発表する機会や、班で話し合う機会を増やすことにより、思考力や理解力が深まってきた。
- ④ 各教科とも自作のプリントを作成し、授業や家庭での予習・復習に活用することにより、自主的に学習する習慣を身につけさせることができ、また学習意欲も高まった。
- ⑤ 今年度は、個別の授業時間を、前期週78時間（前年度比率173%）・後期週71時間（前年度比率157%）に増やし、年間を通して個々の教育的ニーズに応えられるように授業実践を行えた。個別の授業時間を増やしたことで、授業内での生徒一人ひとりの細かな成長や変化に気づき、学習活動に活かすことができた。

次年度への改善点

- ① ・道徳授業の計画的な時間数の確保
 ・アンケートの早い段階での実施と、他のアンケートも併せての計画的実施
- ② 集中力に欠ける生徒、集団になじめない生徒、興味のない生徒への個別の対応を工夫していく必要がある。
- ③ 自分の考えや意見を発表する時間、読書週間の機会、英語科のリスニングの時間などを年間を通して計画的に確保していく必要がある。
- ④ 自作プリント、家庭学習教材の内容をさらに充実させ、自主学習習慣が定着するよう工夫する。
- ⑤ 来年度も、本年度同様に個別の授業時間を確保するために、教員・支援員の配置を今年度以上にさせていただくことをお願いしたい。授業では、情報機器の活用などによる効果的・効率的な教科指導や、授業形態や集団の構成など、工夫した指導の展開を行えるよう努めていきたい。また、特別支援教育推進委員会の運営方法も検討議題として取り組んでいきたい。

項目別評価シート

(3) 生活指導の重点

大阪市立瑞光中学校

目 標 : * 集団生活での規範意識を高め、基本的な生活習慣を身につける。

A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【基本的生活習慣の確立】 予鈴登校運動を継続し、遅刻生徒を減らす。	B	C
②【規範意識の育成】 集団生活でのルールを守ることを、日常的に全教職員で指導する。	C	
③【生活指導上の課題への対応】 配慮を要する生徒に対してカウンセリングマインドを取り入れたり、研修等により全教職員が共通理解を図り、問題発生時には組織的に対応できる体制を整える。	C	
④【安全教育】 生徒の安全対応能力の向上に向けた講習や授業を実施する。	B	

結果と分析

- ① 毎学期、風紀委員・学活委員を中心とした1週間の予鈴登校運動を実施し、時間を守ることへの意識が高まるように取り組んだ。年間を通して1年生・3年生は一部特定生徒を除いては遅刻が少なく成果をあげたが、2年生は徐々に遅刻生徒が増加し、成果を上げることができなかった。
- ② 全校集会や学年集会を中心とした指導で大部分の生徒の規範意識は育ちつつあるが、学年が上がるにつれ、一部規範意識の確立されていない生徒への対応に苦慮しているのが現実。
- ③ 毎学期教育相談週間を持ち担任を中心とした相談活動を実施し、問題や悩みの早期発見に努めるとともに6月の生活指導研修会で配慮を要する生徒に対する共通理解を深めいくつかの課題の早期解決も見られるようになった。しかし問題発生時の組織的対応（学年間の情報交換も含む）がまだ十分とはいえない。
- ④ 7月に各学年ごとに実情に即した目標を設定し、安全教育を実施した。
 - 1年 携帯電話の使用に関して
 - 2年 装飾品（ピアス等）の体を与える悪影響について
 - 3年 非行防止（講話）

次年度への改善点

- ① 基本的生活習慣が確立していない生徒に対して、さらに家庭との連携を深め、協力を得る方法を考えていく必要がある。
- ② 全体的な生徒に対する規範意識の育成は現行のままでも良いと思われるが、規範意識の確立されていない生徒、家庭の協力が期待できない生徒に対する指導・対応についてさらに研修を重ねる必要がある。
- ③ 問題発生時に組織的に対応する体制の確立については、学年によってあまり違いが出ないように共通理解の下、全職員で再度確認・検討する必要がある。
- ④ 時間の確保は難しいが、実施回数を増やし、さらなる安全対応能力の向上を図りたい。

項目別評価シート

(4) 保健管理・指導の重点

大阪市立瑞光中学校

目 標 : *心身ともに健康な生徒を育成する。

A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【健康な生活習慣】 定期健康診断の事前指導を充実させ、事後処置として個人指導を実施する。	B	B
②【健康な生活習慣】 養護教諭と各担任・教科担当との連携を密にし、生徒の情報を共有する。	B	
③【環境整備】 整備委員会の活動を通して、自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。	B	
④【現代的課題】 授業等で環境問題(心の健康やエイズ等)を取り上げ、健康に関する現代的課題に対して正しい知識を身につけさせる。	B	
結果と分析		
<p>① <資料あり>保健だよりや懇談会などを通じ、保護者や生徒に治療の啓発を促し、健康な身体作りを意識する機会を増やした。その結果、どの治療率も中間反省時よりも増えた。</p> <p>② 保健室頻回来室者が増えていることもあり、各先生方との連携を密にしたり、職員会議での生指情報交換を利用し、生徒の情報を共有した。</p> <p>③ 1年生では、クラスの状況を把握し、その現状を解決できるように整備委員が積極的に美化活動に取り組んだ。2年生では、毎週黒板消しクリーナーのそうじをするなど、日ごろ見落としがちなそうじに重点を置いて取り組んだ。3年生では「校内を美しくしよう」の目標を掲げ、他の委員とも協力して、昼休みに校舎周りの清掃活動を行い、校内美化に努めた。</p> <p>④ 1年生では、「第2次成長」「生命誕生」、2年生では「生命誕生」、3年生では「性感染症」の授業を行い、健康に関する現代的課題に対して、正しい知識を身につけさせた。</p>		
次年度への改善点		
<p>① 健康診断の結果から健康を見直すのではなく、保健だよりなどで、健康な身体作りを常に意識させ、予防することの大切さも考えさせていきたい。</p> <p>② 今年度は、後半になるにつれ、保健室を閉鎖することも多くなり、本当に保健室を利用したい生徒ができない状態になった。本来の保健室利用ができるように、教師も生徒も考えていく必要がある。</p> <p>③ 整備委員の美化意識は向上しつつあるが、それを全体に広めて、自発的に美化活動に取り組めるようにしていきたい。</p> <p>④ 生徒たちにより知識をつけさせるためには、教師の事前研修や授業研究が必要である。</p>		

項目別評価シート

(5) 研修の重点

大阪市立瑞光中学校

目 標 : *教職員の資質を高め、教育実践に役立てる。

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが、目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【研修計画】年間3回、今日的な教育課題である全体研修会を計画する。	B	B
②【授業研究】授業研究を実施し、指導力の向上に取り組む。	B	
③【各種研修】今日的な教育課題である「人権教育」の研修・研究を実施する。	B	

結果と分析

- ① ・6月に生活指導研修会を実施した。そして、スクールカウンセラーを交えて各学年の「配慮を要する生徒」の情報交換をし、意思の疎通をはかった。
 ・9月に教員2人による模擬授業で、道徳教育の研修会を実施した。
 ・11月に全教員参加による1年生の道徳教育の研究授業を行い、教員の道徳教育の実践力を高めた。
- ② 1, 2学期にわたり、若手教員による相互参観授業を実施した。内容は、2年次の教員による研究授業を行った後、研究協議で良かった点と改善すべき点などを話し合い、若手教員の授業力の向上に役立てた。
- ③ 今年度は「道徳教育」に力を入れて実施した。

次年度への改善点

- ③ 教職員の「人権教育」研修・研究が不十分であった。次年度には内容を考え、実施できるように計画する。

項目別評価シート

(6) 人権教育の重点

大阪市立瑞光中学校

目 標 : *人権学習を推し進める中で、豊かな人間性の育成に努める。

A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【人権教育】生徒が人権課題に対する正しい知識と認識を深める授業を年間6時間取り入れるとともに日常生活のすべてにおいて人権教育を進める。	B	B
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生では、平和学習2時間・障がい者教育2時間を行った。2年生では障がい者教育2時間を行い、進路学習1時間を行う予定。3年生では、同和学習を1時間行う予定。 ・全学年6時間取り入れることは難しかった。 		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を進めるにあたって、時間的人的の確保が必要となる。 		

項目別評価シート

(7) 進路指導の重点

大阪市立瑞光中学校

目 標： * 将来の進路について自覚をうながし、生徒一人ひとりが主体的に自分の進路を開拓する力を育成する。

A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【キャリア教育】 望ましい職業観・勤労観を育成するために3年間を通したキャリア教育を行う。職業体験・職業講話に取り組む。	B	B
②【進路指導】 最新で詳細な進路情報の提供を行う。 ・「進路の手引き」を年間2回作成して生徒・保護者に提供する。 ・「進路説明会」を年間2回実施し、生徒の進路選択に役立てる。	B	
結果と分析		
<p>① 2年生は職場体験を実施し、3年生は出張授業を実施した。 生徒が将来への目標をしっかりと持てるように取り組んだ。</p> <p>② 「進路の手引き」を発行し、進路学習に取り組んだ。 進路説明会を開催するとともに、「進路だより」を定期的に発行し、進路の最新情報を提供するとともに家庭との連携に努めた。</p>		
次年度への改善点		
<p>② ・公立高校の入試について、大きく変化があった。例年通りの予測ができない状況で、保護者や生徒への情報提供が難しかった。確実な情報を正確に伝えるように努力を続けていく。</p> <p>・入試について、毎年の変化が激しく、研修会などで情報を共有する必要がある。</p>		